

ハイテム 国産化進む『セコノブ』 次世代糞乾システム 台湾へ6号機を輸出

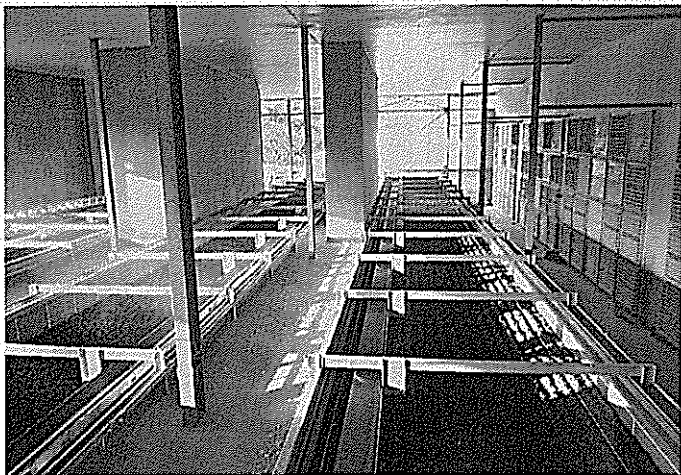
㈱ハイテム(安田勝彦社長)本社・岐阜県各務原市テクノプラザ二一〇は、鶏舎排気に含まれるトリからの廃熱を利用し、直立ケージ鶏糞を二十四時間で水分一五%

に落とす次世代糞乾システム『セコノブ』の特許を、仏ユーロマチック社から購入して、国産化に取り組み、昨年五機を農場に納入した。同社はユーロマチック

社から輸入したセコノブ十四機を全国の十二農場に納入しているが、国産機は、輸入機での現場経験を活かし、トラブルフリーを目指して、きめ細

かい改良を加えており、国産機の納入先からは、優れた評価を得ていると説明している。

糞乾の過程で、アンモニアの発生などの臭いが少なく、環境にやさしいこともセコノブの特長で、水分一五%への乾燥能力と併せその性能が評価され、六号機は台湾への輸出が決定している。



農場で稼働中の国産ハイテムセコノブ